慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	現代日本語における助詞「とか」の機能
Sub Title	
Author	川島, 夏希(Kawashima, Natsuki)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2018
Jtitle	日本語と日本語教育 No.46 (2018. 3) ,p.109- 109
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20180300-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』46：109（2018.3）

〔大学院文学研究科修士論文〕

現代日本語における助詞「とか」の機能

川　島　夏　希

助詞「とか」には「並列」や「伝聞」といった代表的なものをはじめ、多くの機能がある。本稿は、こうした「とか」の多様な機能について注目したものである。また、近年では若者言葉を中心に（他に飲んだものがないにも関わらず）「コーヒーとか飲んだ」というような使い方もあるとされ、こうしたついて用法について現在では「ぼかし表現」や「曖昧表現」として複数の辞書で取り扱われるようになっている。このような従来あった用法から見ると、少し外れているような「とか」も含めて、「とか」が現代日本語の中で実際にどのように使われているかを記述することを目指した。

第 1 章では各々の辞書における「とか」の用法記述について整理した。第 2 章では書き言葉における「とか」の先行研究をまとめた上で、BCCWJ および朝日新聞を資料として新聞記事における「とか」の用例を収集し分析した。第 3 章では、先行研究を踏まえて、複数の話し言葉コーパスを資料として「とか」の用例を収集し分析を行った。そして第 4 章では「とか」の持っていると考えられる機能についてそれぞれの関連性に触れつつ記述した。

第 2 章の新聞記事における分析では、分野（コーナー）ごとでどのような「とか」が用いられているかも分析した。例えば、「当初は若い世代を狙った企画だったが、40 歳以上のグループの利用者も多いとか。」というような文末で「伝聞」を表わす「とか」は、300 字程度の比較的短めの記事において多く使われているという結果が出た。

第 3 章の話し言葉コーパスを用いた分析では、話し言葉特有の使われ方として「〜たりとか」という「とか」の前に「たり」が置かれているものが多くみられることに着目し、なぜ「とか」と「たり」が共起しやすいのかということを考察した。そこから、「とか」が「など」「なんか」「なんて」の一部の用法において置き換わって使われている可能性について実際のコーパスにおける用例を取り上げながら言及した。また、そのような「とか」の実際の使用例を分析していくと、「とか」の直前で述べられている事柄について「取り立て」て、その後ろに自らの意見や評価を述べるといったパターンが多く見られた。

「とか」に加え、これら「など」「なんか」「なんて」といった周辺的な助詞も含め、それぞれの助詞についてより総合的に考えていくことが今後の課題であると考える。